

小淵沢町新規指定文化財

小淵沢町教育委員会は、平成10年度に次の2件を文化財に指定した。2件ともに江戸時代の所産である。一つは工芸品で、一つは石造物である。

②. 高野八幡神社所蔵太鼓(2ヶ)

所 在 地 小淵沢町高野8702

所 有 者 高野区

指定年月日 1998年7月23日

2寸五尺長胴太鼓

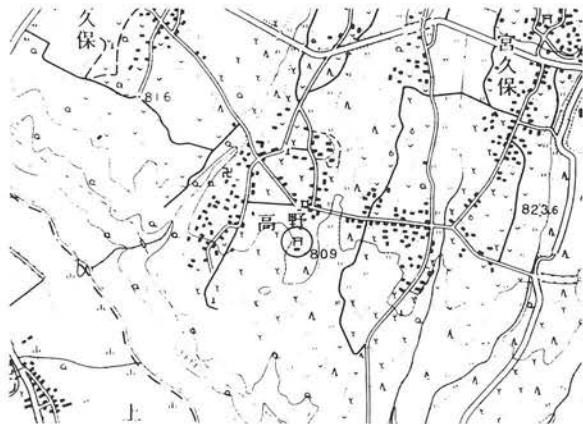
太鼓内墨書銘 「嘉永四年 御太鼓細工 台

ヶ原 久藏 代金拾両

明治四年 台ヶ原宿 張替 久藏 敬白」

2尺長胴太鼓

太鼓内墨書銘 「細工人 台ヶ原宿 久藏 慶応元年 八月吉日 一金八両」



江戸末期に小淵沢村の名主を努めた赤松多典によって八幡神社に納められたもので、ケヤキをくり抜いて作られ、作者名まで判明している貴重な歴史的工芸品である。

③. 高野八幡神社拝殿北側所在の文字道祖神

所 在 地 小淵沢町高野8702

所 有 者 高野区

指定年月日 1998年7月23日

八幡神社拝殿北側にある文字道祖神で、この道祖神について「山梨県の道祖神」の中で、著者の中沢厚氏は「珍しい一個の文字道祖神が小淵沢町高野に鎮座している。甲斐駒ヶ岳と対峙して、眼下に釜無川を見下ろすような八幡神社の右手の山林中に、双神像と、これも道祖神であろう一神像があり、その間に位置した石塊がそれである。縦八十センチ、横六十七センチ、角ばった大石の一面に、書体で道祖神の三字を彫っている。その道祖神の神の字のすぐ下に十センチ弱の小穴が一つ開いている。覗いてみると石塊は空洞らしく、かすかに明るいのはおそらく空洞は下部に抜けているのであろうが、大石塊だから、動かばこそ調べるわけにはいかぬ女性の胎内を意味する、かかる空洞石こそそれだけで道祖神の資格充分というわけである。ここでなお興味のあるのは刻まれた三文字の形である。亀甲文風な特異な筆運びは、「道」の字と「神」の字を部分的に女陰形に表し、「祖」の字の且を男根形に書いているのである。御念のいった、かかる文字碑は今のところ県内でただ一つである」と述べられていて、書体の文字道祖神は数が少なく貴重である。